

会 議 録

1 会議名

第2回上越市子ども・子育て支援総合計画策定委員会

2 議題（全て公開）

(1) あいさつ

(2) 議事

ア 子ども・子育て支援事業計画及び子どもの権利基本計画の搭載事業における平成30年度の進捗状況及び令和元年度の取組内容について

イ 上越市子ども・子育て支援総合計画の骨子（案）について

ウ 子どもの貧困対策について

オ その他

3 開催日時

令和元年7月4日（木）午後1時30分から3時30分

4 開催場所

上越市役所401会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：梅野委員長、平澤副委員長、川端委員、佐藤（文）委員、
長谷川委員、椿委員、石田委員、福田委員、中條委員、阿部委員、
秦委員、白石委員、仲田委員、森岡委員、柳委員、星野委員
- ・ 事務局：大山健康福祉部長
こども課 宮崎課長、小林副課長、八木係長、曾根主任、杉田主任
- ・ 関係課：福祉課 星野副課長、大瀧副課長
健康づくり推進課 田中課長
保育課 坂井課長
すこやかなくらし包括支援センター 南雲次長

共生まちづくり課 渡邊課長

教育総務課 金子課長

学校教育課 手塚副課長、小林副課長

社会教育課 古川係長

8 議事内容

ア 子ども・子育て支援事業計画及び子どもの権利基本計画の搭載事業における平成30年度の進捗状況及び令和元年度の取組内容について

杉田主任 : 資料1-1及び1-2により説明

梅野委員長 : 説明のあった2つの進捗管理表について、関心事や気になる点などの発言を求める。私からは、虐待の相談件数が多くなってきている現状において、虐待に関する教育委員会の対応について、関係機関、関係部署とどのように連携して取り組んでいくのか確認したい。

手塚副課長 : 虐待については、校長会を通じて虐待の恐れがあると分かった段階で、速やかに児童相談所、学校教育課、すこやかにくらし包括支援センターへ報告するよう指導している。また、学校教育課にJASTという専門チームがあり、そういったチームを編成しながら、学校や家庭への支援を行っている。

柳委員 : 上越市子ども・子育て支援事業計画における個別事業の進捗管理表9頁のNo.1「すくすく赤ちゃんセミナー」の平成30年度実績における評価・分析等に「参加勧奨対象者」と記載があるが、これは誰を指すのか。また、25%と連絡がつかない具体的な状況を知りたい。

田中課長 : すくすく赤ちゃんセミナーは全妊婦に参加を呼びかけている。目標の指標は、初産婦の参加率としており、参加勧奨対象者は、初産婦及びそのパートナーである。窓口での相談時など、機会をとらえてセミナーへの参加を促し、また、平日だけではなく日曜日に開催するなどの対応を行ってきたが、参加率は低い。対象者に不参加の理由を尋ねると、仕事の関係で参加することができないとする回答が多く、近年増加傾向にあると感じてい

る。参加の促し方に少し不足があると反省している。今後は積極的に声かけをしていきたいと考えている。

柳委員 : 仕事をされている方が多いので、平日開催ではなく、土曜日、日曜日の開催を検討してほしい。また、15頁のNo.9「放課後児童クラブ」について、暑い夏休み中に放課後児童クラブで長時間過ごす子どもがいる。クラブによってはエアコンの老朽化が進んでいるのではないか。私の子どもが利用している放課後児童クラブは、昨年度エアコンが故障したことがあったので、今後もこのようなことが起きないか心配している。直営から委託への運営方法の変更を検討しているとのことだが、全ての放課後児童クラブの室内環境を改善してから運営方法を変更してほしい。

小林副課長 : 市内51か所ある放課後児童クラブにエアコンを設置しているが、児童数が多いクラブにあっては、エアコン1台で適温調整することは難しいため、増設や更新を進めている。また、扇風機を稼働させるなど、冷気が室内全体に行き渡るように対応している。昨年度、エアコンが故障したクラブがあったが、速やかに修繕し復旧させた。老朽化したエアコンを使用しているクラブもあれば、近年建設した学校内に設置したクラブもあり、室内環境に差が生じているため、利用児童や保護者に迷惑をかけているところだが、状況を確認しながら修繕もしくは環境改善を進めていることにご理解いただきたい。クラブのうち、3クラブを委託により運営しているが、今後、運営方法の在り方を考えていくことにしている。委託するには今の環境を改善しないと難しいと考えていて、相当な時間を要すると思っているが、今後も検討していきたい。

梅野委員長 : 上越市子ども・子育て支援事業計画における個別事業の進捗管理表1頁のNo.5「フッ化物塗布事業」の平成30年度実績における評価・分析等に記述がある「歯科医院でのフッ化物塗布の実施者が増えてきており」について、これは目標を達成してい

ると言えないのか。

田中課長 : 虫歯予防につなげるため、フッ化物塗布を受けるように保護者へ勧めているが、保護者の考えが優先されるため強制することはできない。受けていない子どもを持つ保護者に理由を尋ねると、定期的に歯科医に通院しているとの回答が多く、また、その歯科医で個人的にフッ化物塗布を受けたとする回答もあった。市の事業として目標を達成することはできなかったが、個人的に受けている人を含めると、8割を超える子どもがフッ化物塗布を受けていると認識している。

梅野委員長 : 目標を達成していると思ってよいと考える。過去に開催された子どもの権利委員会においても、目標を達成していると思われるが、数字上、未達成として報告がなされた事例があり、目標値の設定に難しさを感じる。議題2は、上越市子ども・子育て支援総合計画の骨子(案)である。その中で自由に意見交換することができると思うので、次の議題に進んでよいか。

各委員 : 異議なし

イ 上越市子ども・子育て支援総合計画の骨子(案)について

宮崎課長 : 資料2により説明

梅野委員長 : 市が現在検討している方向性であり、非常に大切な部分である。大きな方向性の基に基本施策が作られ、第3回策定委員会でそれが示される。委員各位の意見が計画素案に反映されることになるので、忌憚のない意見をお願いしたい。

中條委員 : 説明を受けて、すっきりした部分があり、また、よく考えていると思う。「計画における主体ごとの主な役割」の「子育て家庭」の役割について、「保護者が子育てに喜びを感じ、愛情をもって、子どもと接すること。」とあるが、「喜びを感じ」の部分が「喜びを感じなければならない」というニュアンスに受け取ることができる。子育て環境が整っていれば、自然と喜びを感じることができるため、「喜びを感じ」は削除したほうが良いと思う。

次に「家族で協力して」の文言について、ひとり親はどのような受け止め方をするだろうか。先ほどの説明に、母親だけに負担が行かないように、と話があったが、それが最も伝えたいことだとすると「母親だけに負担が行かないように家族で協力して」というようなニュアンスのほうが伝わりやすく、母子家庭に疎外感を与えないと思う。次に「保護者同士や地域の人たちとつながりを持つこと。」について、つながりを持つことを主体の役割とすると、つながりたくてもつながれない人、つながりが苦手な人たちの立場がなくなってしまうのではないか。「つながりを持っていいこと。」などとニュアンスに変えたほうがよい。「助けて」と声をあげてはいけないと思っている人がたくさんいるとしたら、それが問題だと思う。いずれにせよ「つながりを持つ努力をする。」などの表現にするなど工夫が必要ではないか。主体にある「地域」について、「町内会、民生委員・児童委員、保育園、学校など」を地域として括っているが、上越市はNPO活動が盛んであり、また法人格がなくとも精力的に活動している団体が多い地域だと思っている。どこかに「NPO」などの言葉を入れることで、「地域」の定義に幅が広がると思うのでぜひ入れてほしい。次に「社会」の「企業等」について、「男女を問わず」と記載されたことは本当に素晴らしく、とても大事なことだと思う。2頁の目標4にある「仕事と生活のバランスが取れた働き方や自ら望むライフスタイルを実現することができる環境を整えます。」の文中に「男女を問わず」という言葉を入れた方がよい。これによって、社会に関わる人たちの理解や納得が得られやすくなると思う。

仲田委員 : 「子ども・子育て」という言葉が気になっている。それは、「子ども・子育て」と言いながら、「計画における主体ごとの主な役割」に子どもの役割に入っていない、しかし目標1では子どもを主体とする目標を掲げている。また、子育てに関する記述が多い印象を受けるが、「子ども・子育て」の言葉の中に、子ども

が自ら育つことも包含されているのか。

星野委員 : 資料1-1の1頁にある「乳幼児健診事業」は原則、全ての子どもが受診しなければならないと思うが、受診していない乳幼児がいた場合はどのようにチェックし、フォローをしているのか。これは虐待や貧困の話につながると思う。また、資料には「連携」という言葉が多用されている。市、県、国に様々な機関があるが、課題解決に向けて、どの機関がどのように連携しているのか、素人でも理解しやすいように連携図のような資料を作ることはできるのか。

柳委員 : 第3回策定委員会で基本施策が示されるということだが、2頁の「これまでの取組やアンケート調査から見えてきた主な課題」にある16項目の課題について、基本施策への反映状況が読み取れる資料があるとよい。

石田委員 : 今年10月より国の施策として幼稚園、認定こども園の無償化が開始され、保育11時間の無償化も決まっている。保育11時間無償化は世界中を見ても日本だけで、週66時間無償化により国は女性就労率80%を目指し、併せて「子どもの権利」についても語られている。幼稚園長会の立場からすると、子どもの権利の尊重と保育11時間無償は矛盾している部分があるため、課題として認識している。毎年、世界幸福度ランキングというものが行われ、直近の結果では104か国中、日本は58位で、昨年の56位から2ランク下がった。背景としては貧困格差の広がりが指摘されている。これは貧困格差と幸福度との関係性があると言うものだが、幸福度を数値化することはできないと思う。上越市版エンゼルプランを策定するのであれば、子どもの幸福度、保護者の幸福度、社会や地域の幸福度という視点もあって良いと思う。

阿部委員 : 「主体ごとの主な役割」の「地域」について、中学校単位で設置しているコミュニティスクールを入れたほうが良いのではないか。コミュニティスクールは、町内会役員、民生児童委員、

こども会役員などで構成しており、地域の中心的な活動部隊であると思う。

宮崎課長 : 中條委員から意見があった、「母親」という言葉を入れるかどうかについて、ひとり親をはじめ様々な家庭があることを踏まえて議論した結果、「家族で協力して」という言葉に広い意味を持たせた。「子育て家庭の役割」にある「つながりを持つこと」の文章表現、「地域」の説明文に「NPO」、目標4の説明文に「男女を問わず」の追記について検討する。仲田委員の「子どもの役割」について、当初は「主体ごとの主な役割」に子どもを入れていたが、内部協議を進めていく中で子どもに役割を求めないこととした。0歳から18歳までの子どもを計画の中心に据えて、それを取り巻く子育て家庭、地域、社会が協力して、子どもたちを育てていく考えから、子どもの役割を除いた。

田中課長 : 星野委員から質問があった乳幼児健診について、乳幼児の中には長期入院などの理由で受診できないことがある。健診会場に来なかった世帯を全て把握し必ず連絡をする。その際、健診があったことを伝えたいうえで、健診対象児の状況等の聞き取り、受診勧奨を行っている。ただし、歯科検診の場合は、かかりつけ歯科医へ定期的に受診している場合があるため、積極的な声かけは行っていない。

星野委員 : 全て把握し、漏れ落ちはないことがわかった。

梅野委員長 : 星野委員から、関係機関の連携図という話があったと思うが、それは今後の参考にすることで良いと考える。

宮崎課長 : 柳委員から意見があった、基本施策への課題の反映状況が読み取れる資料については、第3回委員会で示したいと考えている。石田委員から意見があった、幼児教育保育無償化や保育11時間無償化と子どもの権利の関係、子どもなどの幸福度について、それらを計画に盛り込むことができるか否か、この場では判断できないが、子どもたちが幸福に満ちた生活を送ることができる計画となるように努力していきたい。阿部委員から意見があ

った、「地域」の説明文に「コミュニティスクール」の追記について検討する。

手塚副課長：阿部委員から意見があった、コミュニティスクールについて、この組織の基本的な役割は学校の運営状況等を審議することである。また、社会教育課が所管する地域青少年育成会議は、中学校区単位で設置されている組織であり、地域住民が子どもたちと関わりを持ちながら、地域で子どもを育てる活動を行っている。意見については、社会教育課と整理し、追記するか検討したい。

森岡委員：資料1-2の11頁にあるNo.9「教育相談事業」の目標を学校復帰率としている。子どもたちが不登校になる状況を考えると、いじめを受けた子どもにとっては、何らかの対策が講じられるまで登校しづらい状況が続く。また、集団生活が苦手な子どももいるため、学校復帰だけを目標としてしまうと、子どもや保護者は辛い思いをするのではないか。市内にはそういった子どもを対象とした居場所がつくられており、全国的に見ても学校以外の場所で育つ子どもは少なからずおり、子どもの居場所は学校だけではないと思う。どの子どもであっても、安心して自信をもって自由に自分らしく過ごせる居場所があれば良いと考える。また、そういった居場所へ何らかの支援があっても良いと思う。

梅野委員長：達成率だけを取り沙汰されると辛く感じる方もいると思う。

秦委員：よくまとめてあるというのが感想である。アンケート調査等の結果を踏まえて「貧困がもたらす問題への対策」「子どもの居場所づくり」の2点に大きくまとめたことに共感を覚える。これらについて目標2、目標3に関連性がみられるが、アンケート調査結果から見えてきた課題であることを一読しただけで理解できるように文章を精査してほしい。また、広報上越11月1日号で毎年「子どもの教育を考える」をテーマとした記事が掲載されるが、計画策定の進捗状況等を少し掲載して、取組の

方向性を周知してはどうか。紙面のスペース的な制約はあるとは思いますが、目標 2、3 の取組の概要を掲載したらよいと思う。

平澤副委員長：1 頁目のイメージ図について、全部の矢印が子どもと子育て家庭に向いており窮屈な印象を受ける。また、子どもや子育て家庭が常に支えられている存在であるかのように見える。第 6 次総合計画の将来都市像では「人と地域が輝く」とあり、主体それぞれが輝くことを意味していると考えれば、子どもや子育て家庭は様々な支援を受け入れやることはあるし、自分たちが自発的にやれることもたくさんあると思う。もっと開放的で、もっとエンパワーメントなイメージ図が良いと思う。

梅野委員長：計画を見て、上越市に住みたいと思えるように、できれば魅力的な文章にしたほうが良い。文中に「こうすべき」などの言い方が繰り返されると、読みたくなくなると思う。上越市はこんなふうに開放的になって、広がりをもってこんなふうに主体的な生活ができる、だから上越市は素晴らしいんだと思える文章にしたほうが良い。課題を克服するところに希望があるので、そうすると上越市は他の地域にはない素晴らしい地域になるという、プラス面をアピールすることができるのではないかと。エンパワーメントは大事なキーワードである。庁内で調整していると出にくい要素かと思うが、社会全体にアピールできる文章となるように作成していただきたいと思う。委員各位の意見が全部、そういうようなところから出ていると思いきや発言した。

仲田委員：子どもの育ちを支援する部分は見えるが、子どもが自ら育っていくということをどのように尊重して保障していくかという部分が見えてこない。以前に配布されたアンケート調査世帯構造別クロス集計結果について、子どもへのアンケートにある「あなたは自分に自信がありますか」の設問に対して、「自信がない」とする回答の割合は少なくはないと感じている。子どもが自ら育っていくことについて、計画でどのように語っていくのか、検討してほしい。

星野委員 : 先ほど回答があった乳幼児健診の関係について、漏れ落ち0件であったとしても、連絡が取れにくい方や、連絡が取れた方の中でも会話中にひっかかりを感じる場合があると思う。不安や心配事など何らかの事情を抱えている可能性が考えられるが、そういった時の対応策はあるのだろうか。また、被虐待児童数が増えている中、通報があってから動くのではなく、もっと予防的な取組はないのか。計画の中で、そのような取組が記載されると思うが、一般市民が読んだときに取組が理解しやすいものであると良い。

梅野委員長 : 様々な専門の方からの意見が出てきている。それぞれの立場の人の心に響くような文章になると良い。素晴らしい政策はあると思うので、上越市の気持ちが市民に届くような文章表現をぜひお願いしたい。

秦委員 : 昨年度行ったアンケートには、子ども自身の考えを聞く設問がある。「自分には将来の夢や目標があるか」「将来のため、今がんばりたいか」などの設問では、肯定的な回答数が多かった。自信がないなどの回答数は多くなく、それは困窮層に該当する子どもも同様であった。この結果を計画に載せることで、市民の目に止まり、それによって子育てに協力する人が増えるのではないか。

梅野委員長 : 議題3子どもの貧困対策のところで、引き続き意見を出してもらって構わないため、次の議題に進んでよいか。

各委員 : 異議なし

ウ 子どもの貧困対策について

八木係長 : 資料3により説明

梅野委員長 : 意見、質問はあるか。

柳委員 : 3頁にある図はとても分かりやすいと思う。図中の「多様な保育サービス等」にあるとおり、就学前までのサービスは充実していることがわかるが、小学校に入学すると保育サービスが薄

くなっているという印象を受ける。ファミリーヘルプ保育園では日曜日や祝日であっても子どもを預かるが、小学1年生になると預かりの場がなくて困っているという保護者は周りにいる。私自身も夫との仕事の関係で調整しているが、預かってもらえる場所があれば精神的に楽になると感じるので、日曜日、祝日における小学生の保育を充実してほしい。

中條委員 : 子どもの貧困対策を議論すると、必ずと言っていいほど母子家庭の非正規社員率が高いということが問題視される。最近の統計情報を見ると、日本人女性の第一子出産に伴う退職率は6割5分程度であるので、第一子出産時に、望まない退職をしないですむ支援の方向性、仕組みが上越市にあると貧困対策という1つの取組だけではなく、子ども・子育て支援総合計画の中でも大事な取組になると思う。子育てを目的に退職する人を除き、様々な理由で退職せざるをえない人に対する何らかの支援があると、貧困対策に繋がると思うので検討してほしい。

梅野委員長 : 希望が持てる発言であると感じた。多くの意見に対して、すぐに実行することは難しいかもしれないが、今から努力していくのではないかと思う。最後に大山部長に発言を求めて、私の議長の任を解かせてもらう。

大山部長 : 数多くの意見を出していただき感謝申し上げます。資料2にあるイメージ図や子どもの役割など、骨子(案)の作成に向けて議論を重ねてきた。本日、各位の発展的な意見を伺う中で気づかされることが多く、活発な発言に感謝している。今後、基本施策を組み立てていくが、子どもたちの育ちや将来の姿を思い描きながら、またそれをわかりやすい文面で伝えていきたいと思う。本計画を上越市民に知ってもらう、分かってもらうことはもちろん、これからの地域を担う子どもたちの成長を全体が支えていくが大事だと思っている。本日いただいた意見を踏まえて基本施策を組み立て、それを第3回策定委員会で審議していただきたいと考えている。次回の策定委員会もお願いしたい。

八木係長 : 本日の配布資料に「子どもの貧困対策について意見書」がある。

各位の立場から、子どもの貧困対策に関する考えなどがあつたら意見書に記入し、こども課へ提出していただきたい。いただいた意見はこども課で検討したうえで、必要に応じて計画に反映したいので提出に協力していただきたい。

9 問合せ先

健康福祉部こども課企画管理係 TEL : 025-526-5111 (内線 1728)

E-mail : kodomo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。